

令和 5 年 度
宮崎国際大学 教育学部
一般選抜後期

試 験 問 題
【小 論 文】

受 験 番 号
氏 名

問題

次の文章は、小学校時代に不登校の経験を持つ社会学者の 貴戸理恵 さんが、中高生に向けて行った講義の一部です。文章を読み、後の問いに答えなさい。

最近では「コミュニケーション能力」とか「コミュ力」といういい方をよく聞きますね。大学入試や就活の面接で対人能力が重視されたり、日常生活のなかでも「あの、コミュ力高いよね」といういい方をしたりすると思います。こういういい方をするとき、私たちは「能力の高い人」と「低い人」がいることを前提としています。

けれども、コミュニケーションは本来個人の能力ではなく、たとえばAさんとBさんの間で生じる「関係性」や「意思疎通のあり方」だろうと思うんです。コミュニケーションがうまくいかないことはいつだってあり得ます。けれど、それを「Aさん／Bさんのコミュニケーション能力がないからだ」と一方のせいにしてしまうのいいのだろうか、と疑問に思います。

たとえば、私は不登校だったころ、不登校を受け止め、私の意見に耳を傾けてくれる人とは話ができたけど、不登校をあらかじめ否定する人の前ではほとんど話せませんでした。後者のような人は社会の多数派でしたから、私は「コミュニケーション能力の低い子だ」と思われていたことでしょう。

もちろん、「コミュニケーションのうまい人」は実際にいます。たとえば営業マンAさんがきても買わないけど、Bさんだとついつい話し込んで買ってしまう、ということはありませんし、就職の面接でも自己アピールのうまい人とうまくない人がいるのは確かでしょう。でも、だからといってそれを個人の能力にしてしまうと、「改善するには個人が頑張るしかない」ということになり、「お互いに関係を調整する」という選択肢がなくなってしまう。それはちょっともったいない。できるだけ関係性の次元に立ち止まって考えてみることで、対話の幅が広がるように思います。

たとえば、「コミュニケーション能力がある人」は、もしかしたら「コミュニケーションにかかるコストが安い人」なのかもしれません。つまり一回聞いただけで相手のいいたいことがわかるから、こちらが省エネしていてもコミュニケーションがとりやすい。そういう意味でコストが安いといえます。一方、「コミュニケーション能力が低い」とされる人は、丁寧に時間をかけて人との距離を詰めていきますから、相手のほうもコミュニケーションにかかる時間や労力が多くなる。つまりコストが高くなります。

こんなにまわりくどい区別をする理由は、コミュニケーション能力を個人のせいにせず、コミュニケーションにコストをかけることができないこちら側の問題、効率化を重視する市場や社会の問題に引き寄せて考えることができるからです。コミュニケーション能力によって個人を切り捨ててしまう社会より、社会の側がコミュニケーションにコストをかけ

ることで、多くの人と繋^{つな}がりを作りやすくなる社会を目指していくほうが良いと思っています。

(貴戸理恵「コミュカと生きづらさ」による)

問1 この文章の中で、貴戸さんは、「コミュニケーション」や「コミュニケーション能力」を、どのようにとらえていますか。300以内でまとめなさい。

問2 貴戸さんの意見を踏まえ、あなたが教育の場で子どもとコミュニケーションをとるとき、どのようなことに心がけたいですか。300字以内で具体的に述べなさい。